

GIDWR 岐阜県感染症発生動向調査週報

2014 年第 24 週
(6/9～6/15)

Gifu Infectious Diseases Weekly Report 岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）

- ◇ 先週に引き続き、咽頭結膜熱が岐阜地区を中心に増加しています。→トピックス
- ◇ 流行性角結膜炎の報告がやや増加しています。→トピックス
- ◇ A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎の流行が続いています。

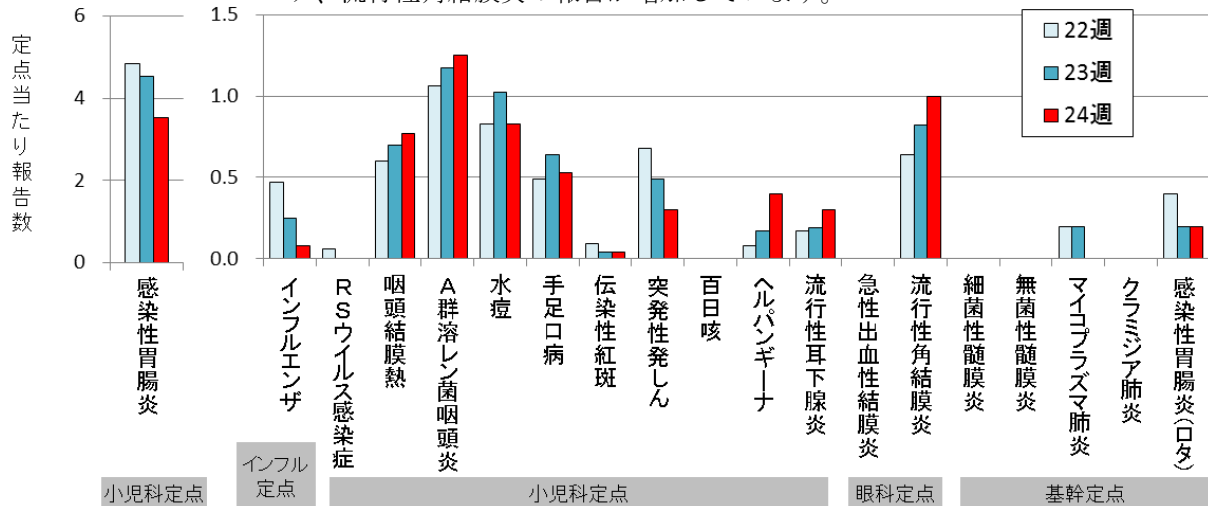
■ 定点把握対象疾患（インフルエンザ 定点:87 か所、小児科定点:53 か所、眼科定点:11 か所、基幹定点:5 か所）

● 警報・注意報レベルの保健所がある疾患

	疾患名	保健所名（定点当たり報告数）
警報レベル	なし	—
注意報レベル	なし	—

● 直近 3 週の比較

・先週と比較して、咽頭結膜熱、A 群溶血性レンサ球菌咽頭炎、ヘルパンギーナ、流行性角結膜炎の報告が増加しています。



■ 全数把握対象疾患

● 今週届出分

- 1 類感染症：なし
- 2 類感染症：結核 14 例
- 3 類感染症：腸管出血性大腸菌感染症 1 例（O157）
- 4 類感染症：レジオネラ症 1 例
- 5 類感染症：劇症型溶血性レンサ球菌感染症 1 例、侵襲性肺炎球菌感染症 1 例、麻しん 1 例

● 2014 年累計

1 類感染症	なし		
2 類感染症	結核	181 例	
3 類感染症	腸管出血性大腸菌感染症	11 例	
4 類感染症	E 型肝炎	3 例	デング熱 1 例
	A 型肝炎	1 例	マラリア 1 例
	つつが虫病	1 例	レジオネラ症 9 例
5 類感染症	アメーバ赤痢	5 例	侵襲性肺炎球菌感染症 13 例
	急性脳炎	1 例	梅毒 2 例
	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	3 例	バンコマイシン耐性腸球菌感染症 1 例
	後天性免疫不全症候群	5 例	風しん 1 例
	ジアルジア症	1 例	麻しん 3 例
	侵襲性インフルエンザ菌感染症	4 例	

全国情報は国立感染症研究所感染症疫学センターの HP をご覧ください。

■トピックス

《咽頭結膜熱（プール熱）》

◆ 岐阜地区を中心に増加しています！

先週に引き続き、咽頭結膜熱患者の報告数が増加しています。

特に岐阜市保健所、岐阜保健所管内で多く報告されています。

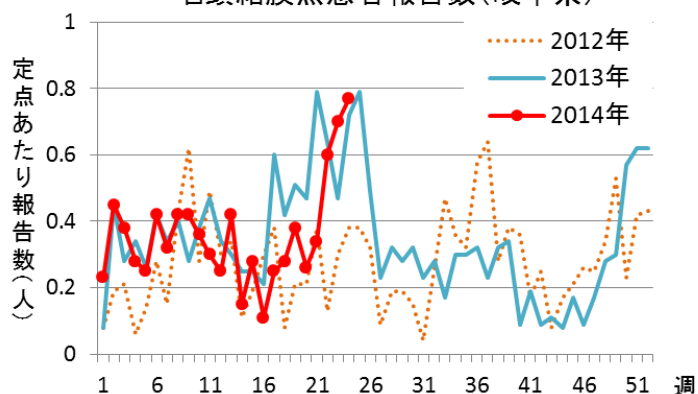
◆ 手洗いを励行し、タオルの共用は避けましょう。

咽頭結膜熱の原因となるアデノウイルスは、患者の鼻水や唾液、目やに、便などに排出され、飛沫感染や接触感染により広がります。

手洗いを励行し、特に保育所などでは子ども同士でタオルの共用は避け、おむつなど汚物の取り扱いにも注意しましょう。

また、プールの始まる時期ですので、プールでの感染にも注意が必要です。プールでは、タオルや目薬の共用を避け、プールに入る前と入った後はシャワーで体をよく洗いましょう。

咽頭結膜熱患者報告数(岐阜県)



保健所別咽頭結膜熱患者報告数

() 内は定点あたり報告数

保健所	24週	23週	22週	21週
岐阜市	14 (1.56)	14 (1.56)	13 (1.44)	4 (0.44)
岐阜	12 (1.20)	7 (0.70)	4 (0.40)	4 (0.40)
西濃	6 (0.67)	11 (1.22)	7 (0.78)	2 (0.22)
関	1 (0.20)	3 (0.60)	1 (0.20)	2 (0.40)
中濃	1 (0.20)	1 (0.20)	1 (0.20)	0 (-)
東濃	3 (0.60)	0 (-)	5 (1.00)	4 (0.80)
恵那	2 (0.50)	0 (-)	1 (0.25)	0 (-)
飛騨	2 (0.33)	1 (0.17)	0 (-)	2 (0.33)
岐阜県	41 (0.77)	37 (0.70)	32 (0.60)	18 (0.34)

感染症法における取扱い

咽頭結膜熱は、感染症法において5類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約3,100か所（岐阜県53か所）の小児科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouh-ou-kijun.html> (保健医療課 HP)

《流行性角結膜炎》

◆ 県内でやや増加しています。

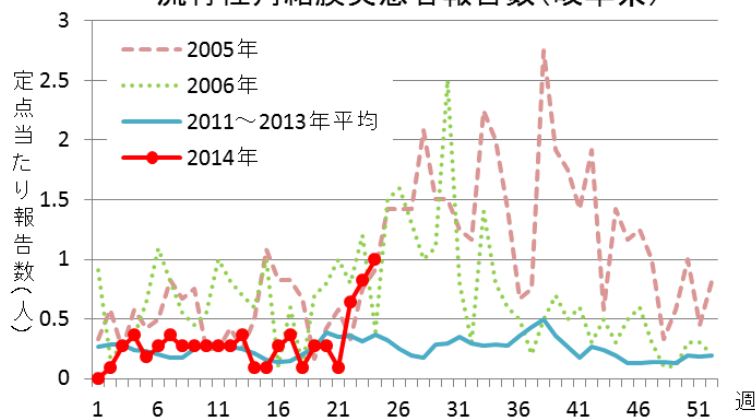
流行性角結膜炎は、主にD群のアデノウイルスによる目の感染症で、主に人の手を介して感染します。

2000年代前半頃までは夏季に流行がみられましたが、近年では季節性はみられなくなりました。

県内では、11か所の眼科定点から患者数の報告を求めており、2005～2006年には比較的多くの患者が報告されましたが、2007年以降は低い水準で推移しています。

今年も5月半ばまで低い水準で推移していましたが、ここ3週間は報告数がやや多く、第24週は11人（定点あたり1.0人）となっています。患者は子どもから成人まで幅広い年代で報告されていま

流行性角結膜炎患者報告数(岐阜県)



す。かつての流行時ほどのレベルではありませんが、今後の動向に注意が必要です。

◆ 家族内での感染に注意しましょう。

原因となるウイルスは、患者の目やにや涙などに存在し、主に手を介して感染します。家族内での感染を防ぐため、患者は手で目を触らないこと、目や手を拭くときは使い捨てのティッシュなどを使用すること、手をよく洗うことなどに注意しましょう。家族など周囲の人も、手洗いを励行し、患者とのタオルの共用を避けましょう。

流行性角結膜炎とは

主に D 群のアデノウイルスによる目の感染症で、8～14 日の潜伏期の後、まぶたの浮腫、結膜の浮腫や充血が現れます。その後、角膜に炎症が及ぶと角膜が混濁することがあります。その他、耳前リンパ節の腫れや圧痛がみられます。新生児や乳幼児では偽膜性結膜炎を起こし、細菌の混合感染で角膜穿孔を起こすので注意する必要があります。アデノウイルス全般について有効な薬剤はなく、対症療法となります。

感染症法における取扱い

流行性角結膜炎は、感染症法において 5 類感染症定点把握対象疾患に定められており、全国約 700 か所（岐阜県 11 か所）の眼科定点から毎週報告がなされています。届出基準・届出様式はこちらをご覧ください。

<http://www.pref.gifu.lg.jp/kenko-fukushi/yaku-eisei-kansen/kansensho/hasseidoko/kansenshouhou-kijun.html>（保健医療課 HP）

岐阜県感染症情報センター（岐阜県保健環境研究所）HP

<http://www.pref.gifu.lg.jp/soshiki/kenko-fukushi/hokekan/kansensyo/>